

東北大学関東良陵同窓会

春季総会の「案内」

新緑の候、会員各位には、益々ご清栄のことと大慶に存じ上げます。

さて、東北大学関東良陵同窓会春季総会を下記により開催したいと存じますので、なにとぞ万障お繰り合わせのうえ、ご出席を賜りたくご案内申し上げます。

今回の総会では、特別講演を日本病院団体協議会議長 全国公私病院連盟会長 竹内正也先生(昭和二十五年卒)にお願いして、「国際的支援・交流の経験 日本 の病院界の発展を希望して」(後述)と題した講演をしていただきます。竹内先生は世界各国を訪問されて、国際的な医療界の実情に詳しく充実した内容のお話が聞けると期待しております。

アフターディナーコンサートは、関東良陵同窓会の役員で副幹事を務める根本 宏先生(昭和四十一年卒)が師弟共演(後述)でヴァイオリン演奏をご披露してくださいませ。

薫風の季節にふさわしい楽しい総会になるものと思っております。奥様はじめご家族の皆様お誘いいただき、ご出席をくださいますよう、皆々様のお越しを心からお待ち申し上げます。

東北大学良陵同窓会

関東連合会 会長

高橋 俊雄

(会費納入のお願い 本総会会費及び年会費の

ご納入を四ページ記載要領にてお願いいたします。)

記

一、期日

平成十九年六月十六日(土)

市ヶ谷私学会館アルカディア4F

(千代田区九段北四・二・二五・電話

03・3261・9921) 交通・地下

鉄有楽町線・新宿線・南北線市ヶ谷駅、

JR市ヶ谷駅下車それぞれ徒歩約2分

午後四時より

二、場所

午後四時三十分開会

一、開会の辞

一、会長挨拶

一、経過報告

一、各役員報告

一、秋季総会担当報告(新潟)

一、閉会の辞

三、受付開始

「国際的医療支援・交流の経験」

竹内正也先生(昭和二五卒)

四、総会

午後六時より

一、開会の辞

一、アフターディナーコンサート

根本 宏先生(ヴァイオリン)・掃部

彰子さん(ヴァイオリン・ピアノ)

一、閉会の辞

会員 一〇〇〇〇円

ご家族 八〇〇〇円(一人)

五、特別講演

同封の振替用紙に会費と共に

お申込み下さい。

六、懇親会

お申込み下さい。

七、会費

お申込み下さい。

八、出席申込み

お申込み下さい。

春期総会特別講演要旨

国際的医療支援

交流の経験

(日本の病院界の発展を希望して)

竹内正也

(昭和二五卒)

病院界・団体の一本化

平成十六年十一月、有識者会議でおこなわれた「中央社会保険医療協議会の在り方の見直しに係る基本的合意」に基づき「病院等多様な医療関係者の意見を反映できる委員構成の在り方」が審議されました。

これにより、日本の病院界が一つにまとまることが要請されました。今までは日本医師会から五名の中医協医院が任命されていましたが、そのうちの二名を病院界から推薦することが決まり、病院団体も一本化の気運が生じ、その取りまとめ役をお引き受けしました。



写真上は竹内正也先生

その後大きな混乱もなく、国立大学付属病院長会議、独立行政法人国立病院機構、全国公私病院連盟など十一団体が結集して、日本の病院の約九〇％が参加する日本病院団体協議会(日病協)が誕生しました。

医療界の現在の課題

さて、医療界の現在の課題は、昨春の社会保険診療報酬三・一六％削減に伴う病院経営の不安、医師不足、七対一入院基本料導入による看護師不足、患者負担の増加等々でありましょう。

数百兆億円にも及ぶ負債を抱える国の要請ならば「医療費抑制も止むを得ない」と考えつつも、景気回復と共に国の税收改善が報じられ、欧米諸国の三分の一以下である消費税を「目的税として医療・介護・福祉の充実を目指すべきだ」という国民の声が次第に大きくなってきている時に、史上最大の三・一六％の引き下げが簡単に行われたことは、国民の理解を容易に得られないことでありましょう。

東京大学経済学部の宇沢弘文名誉教授は「医療は社会的共通資本であって、医療費を軽々しく削減することはもつてのほかであり、経済に医療を合わせるのではなく、医療に経済を合わせるべきである」と申されており、**世界カトリック医師会議**

昨年五月、スペインのバルセロナで開かれた世界カトリック医師会議に出席いたしました。そのテーマは、「貧困」であり、世界を席捲するクロ

パリゼーション・市場原理主義を批判しております。

会議では「社会の二極化を推し進め、勝ち組と負け組を作り、貧しい一般市民を苦しめることは医療の本質に反する」と議論されましたが、日本においても、もう一度、「人間の幸せとは何か」を医学界のテーマとして論ずる時代が来ていると考えます。

アフリカ・ザイル訪問

一九八二年アフリカ・ザイルで働いている助産師の徳永瑞子さんを訪ねていきました。現地では、母子保健、風土病対策、栄養指導、特に教育が重視されていきました。

わずかに一週間の視察でしたが、絶望的にならざるを得ない困難な状況が多くありました。薬品が極めて欠乏して、医療活動に支障をきたしていたので、徳永さんに全自病協から日本製薬協の協賛を得て三回にわたって数百万円ずつの薬を送りました。

中国東北部との医療交流

北京市にある北京医院は、中国政府高官が受診する中国第一の病院で、多くの友人がいます。

四人組の時代が終わって間もない中国は、どの病院も薄汚れて、医療器械は少なく貧弱で、医療従事者は統制が取れず、無気力な空気が漂っていました。

ところが、最近では北京等の都市に一〇〇〇〇〇〇階建ての近代的巨大病院が出現して、医療従事者は洗練され、最新の医療器械が整備されて隔世の感

を強く感じる状況になってきました。この二十年間に驚くべき速度で中国の国力が充実してきた証左だと思えました。

フィリピンとの出会い

日本の聖母訪問会のシスター六人(女医一、看護師二名を含む)は、イサベラ州(人口一〇〇万人、村落一〇〇〇)の中心、ギバン村に定住して、医療・介護、衛生・生活指導などを行い、村民のために献身的に尽くしている姿をみました。そのとき診療所設立の強い要請を受け、帰国後、協力者の援助により一千万円を集めてベッド九床、診療室三、薬局等を整備した診療所を完成させました。

その他

竹内正也先生略歴

- 昭和二五年 東北大学医学部卒
- 同三二年 医学博士取得
- 同三八年 いわき市立常磐病院院長
- 同六四年 社会福祉法人聖母訪問会 総合病院聖ヨゼフ病院院長
- 平成五年 財団法人社会保険いばらぎ健康管理センター長
- 同十年 湘南グリーン老健施設長
- 同十三年 同施設長退職
- 現在 日本病院団体協議会議長 全国公私病院連盟会長
- 受賞 昭和五八年 自治大臣賞 同六二年 藍綬褒章 平成八年 勲四等瑞玉章

平成十八年関東良陵同窓会
秋季大会・水戸で開催

首題の大会は、平成十八年十月二十九日(日)、水戸市マラマレー水戸京成ホテルで開催された。

午前十一時から茨城県支部総会が行われ、水戸医療センター池田成昭院長の辞に引き続き、平成十五年から現在までの物故された会員十二名に黙祷を捧げ、引き続き秋総会・会長高橋慎一郎茨城支部長の挨拶があった。本秋季大会には五十名を超える参加者があり、茨城県以外からも東京、山梨、新潟、神奈川などからも参加があり、盛会であること、茨城支部主催は平成八年以来十年振りであること、第一回の秋季大会は昭和五五年茨城支部主催で行ったことなど説明があった。次に茨城支部の庶務報告を植木浜一総務担当幹事、会計報告を対木章会計担当幹事が行った。

続いて良陵同窓会関東連合会役員の見学と報告に移った。ま

ず、高橋俊雄会長の挨拶として、本秋季大会の準備に当たられた茨城支部への謝意、良陵同窓会関東連合会の活動状況、平成十八年に関東良陵同窓会から七名の教授が首都圏に誕生したことなど報告があった。つぎに新田澄郎幹事長から良陵同窓会関東連合会の会員数は一〇〇一名、会費納入率六〇%、春季大会の報告があり、最後に平成十九年度秋季大会について新潟支部の相馬芳昭先生から、明年秋には新潟において、本総会を開催するため鋭意準備中であるとのご報告があった。

次いで特別講演に移った。今回の演者は東北大病院長、東北大学副学長里見進先生に「東北大病院のこれから」と題してご講演を頂いた。講演のあらましは、「東北大学も独立行政法人化し、財政的には大きな影響を受け経営面では、完全な独立採算制を強いられること、これまで建設した建物や設備、機材はすべて病院の借金と計上され、その返済が求められてい

ることなど厳しい運営について話された。従って、学長や院長などの組織のトップは、経営手腕、リーダーシップなどが重要になったとのことであった。

大病院の将来像については、財基盤の確立が極めて重要な課題であり、新しい制度に基づいたがん診療連携拠点を大病院としては初めて獲得したこと、高度救急救命センターを宮城県と仙台市と連携して構築し県と市からの予算を獲得、研修医の指導体制の充実、治験センターの充実をはかったこと等を述べ

られた。そして新装成った東北大学医学部・病院キャンパスの威容、明るく近代的な病院の内装、以前とはがらりと変わった中央廊下などの写真を示され、東北大学医学部・病院の明るい将来と発展を示唆しているように、会員一同大変心強く感じた。

特別講演終了後は、全員で記念撮影を行い、イ・ソリスト・イバラキ室内合奏団の美しい演奏を聴きながら懇親会に入り、午後二時、楽しい中で会は終了した。(文責 高橋俊雄会長)

アフターティナー・コンサート

今春季総会のアフターティナーコンサートは関東良陵同窓会役員で、副幹事長の根本 宏先生(昭和四一卒)のご出演です。楽器はヴァイオリン、ピアノ、師匠である掃部彰子さんと師弟の共演となります。乞うご期待！
◇プログラム ◇バッハ・メヌエット ◇リーディング・コンチェルト
◇エックレス・ソナタ ◇マズナー・タイスの瞑想曲 ◇ホルムベスク
◇望郷のバラード ◇その他



根本 宏先生のプロフィール

昭和四一年東北大学医学部卒 在学中、昭和舎に入所。医学とヴァイオリンを研鑽。東北大学交響楽団に所属す。その後第一外科へ入局。昭和四八年大学院卒後上京し病院勤務後、昭和五二年大泉学園にて医院開設。現在に至る。眠っていた愛用のヴァイオリンが四〇年ぶりに甦ります。

東北大学三師会開催

東北大学 医・薬・歯学部卒業生による表記会合が本年四月二十二日(日)正午より、東京・市ヶ谷の私学会館アルカディアで開催され、約二十名が参会した。高橋俊雄会長の講演「がんで死なないために」があり、参加者の自己紹介ありで、お互いの楽しい会話も弾み午後三時散会した。

全学同窓会関東支部会

第二十回総会開催

頭書の会が平成十八年十月三十一日午後六時より東京神田の学士会館で開催された。

今回の特別講演は、理学部昭和二十八年卒でアラスカ大学国際北極圏研究センター所長、日本学士院賞受賞者の赤祖父俊一先生による「極北の世界とオーロラの神秘―北極圏における気候変動と地球温暖化」で、数多くの綺麗なオーロラの写真をもとに、オーロラは光のカーテンであるが、高い上空から見ると輪で、その中心は地磁気を中心であり、その光はネオンサインと同じ原理により発生する自然のネオンサインで、地球自体が磁石であるので、オシロスコープ相似し、酸素、水素、窒素の電子の衝突により発生すること、土星、木星にはオーロラがあり、水星、金星には無く、オーロラの存在する惑星には酸素が存在するので、生

物の存在の可能性が考えられること、また地球の温暖化はメキシコ暖流が北極海に流入するなどの自然現象の変化による自然変動も原因の一つに挙げられ、炭酸ガスの増加のみが原因でないなど、病気をミクロに近い範囲で考える我々の分野とは正反対の、大宇宙の現象を分析した先生のお話は大変に興味深かった。

総会終了後、懇親会に移り、総勢一三五名の十学部の同窓生が互いに旧交を暖めあった。

医学部からは、浦本(昭十九) 渡部(二六)、新井(二六)、山形(二九)、信田(二九)、小山田(三〇)、田家(三二)、篠原(三三)、諸先生の計八名であった。(信田記)

若手会開催

平成十九年三月三日、飯田橋ビル20F・北海道(店名)にて、若手会が開催された。昨年よりは参加者は若干少なかったが平成九年卒の若手から昭和三四年卒までの自称若手まで、多くの関東良陵会員が参加して、日頃の忙しさを忘れ飲み放題、食べ放題、言い放題の楽しいひとときを過ごした。各人のスピーチは、かなり時間オーバーの人もいたが、自己宣伝も兼ねた情報交換の場として大変に有効であった。(写真・若手会)

東北大学創立百周年記念 東京祝賀会及び講演会

頭書の会合が左記の日程で開催予定です。

なお詳細は全学同窓会本部事務局より連絡があると思われまます。

日時―平成十九年六月二十三日(土)

受付―午後一時三十分から

場所―神田学士会館

講演会―午後二時より 全学同窓会

関東支部総会 同二時三十分

より 創立百周年祝賀会挨拶

祝賀懇親会―午後五時十五分から

同六時三十分

関東良陵同窓会医部会開催決定

右記部会は次ぎの日程で開催されます。

* 平成十九年七月七日(土)

* 場所：麹町東京FM Jet Stream
地下鉄半蔵門線「半蔵門」下車
徒歩3分

会費納入のお願い

今年度会費三千円を同封の振替用紙にてご納入ください。総会会費も同様に願います。

*事務局住所変更のお知らせ

東北大学関東良陵同窓会事務局の住所が左記に変わりましたのでお知らせします。

新住所 〒一七八―〇〇六一

東京都練馬区大泉学園町六・二七―二

大泉中央クリニック内

東北大学良陵同窓会

関東連合会東京支部

〒一七八―〇〇六一

東京都練馬区大泉学園町六・二七―二

大泉中央クリニック内

電話 〇三(三九二三) 五六七八

FAX 〇三(三九二三) 五六一八

〇三(三九二三) 五六九八